

(5) 英語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
 表 現：表現の能力
 理 解：理解の能力
 言・文：言語や文化についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)		
聞くこと	1	(1)	英語での問いかけに応答する。	理解	80.0	70.7	
		(2)	英語での問いかけに応答する。	理解	55.0	45.5	
		(3)	英語での問いかけに応答する。	理解	55.0	72.2	
	2	(1)	英語を聞いて詳細を理解する。	理解	70.0	77.1	
		(2)	英語を聞いて詳細を理解する。	理解	80.0	92.6	
		(3)	英語を聞いて詳細を理解する。	理解	70.0	84.1	
		(4)	英語を聞いて詳細を理解する。	理解	55.0	91.0	
	3		英語を聞いて概要・要点を理解する。	理解	70.0	47.2	
	書くこと	4	(1)	英語の基本的な文法事項を理解する。	言・文	55.0	30.3
			(2)	英語の基本的な文法事項を理解する。	言・文	65.0	65.1
(3)			英語の基本的な文法事項を理解する。	言・文	55.0	58.9	
読むこと	5	(1)	英語を読んで概要・要点を理解する。	理解	80.0	87.9	
		(2)	英語を読んで概要・要点を理解する。	理解	70.0	60.4	
	6	(1)	英語を読んで詳細を理解する。	理解	70.0	65.6	
		(2)	英語を読んで詳細を理解する。	理解	70.0	79.0	
書くこと	7	(1)	与えられた英語で語順を正しく書く。	表現	55.0	71.1	
		(2)	与えられた英語で語順を正しく書く。	表現	70.0	66.5	
読むこと	8	①	場面に応じた英語の使用法を理解している。	理解	65.0	88.3	
			②	場面に応じた英語の使用法を理解している。	理解	65.0	54.2
		(2)	場面に応じた対話の流れを理解している。	理解	55.0	45.9	
書くこと	9	(1)	疑問詞の文を指定された内容で書く。	表現	70.0	66.1	
		(2)	疑問詞の文を指定された内容で書く。	表現	50.0	52.8	
		(3)	命令文を指定された内容で書く。	表現	50.0	58.8	
	10		英語で指定された内容を書く。	表現	50.0	24.2	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内				
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	How are you ?に対する応答	80.0	72.4	71.1	87.2	59.7	52.8	68.2	62.0
	(2)	Whoseを用いた疑問文に対する応答	55.0	49.2	49.0	51.9	46.4	41.2	46.1	51.5
	(3)	Where及び現在進行形を用いた応答	55.0	72.9	72.7	75.3	71.5	72.9	74.2	68.8
2	(1)	7時15分と7時50分の聞き分け	70.0	72.2	72.1	72.8	82.2	80.5	85.5	82.2
	(2)	2人の人間の動作と状態の理解	80.0	92.3	92.2	93.2	95.1	94.5	93.6	96.4
	(3)	名詞の単数・複数及び物のある場所の理解	70.0	84.7	84.5	86.4	90.2	90.6	91.2	89.3
	(4)	物の数と大小の聞き分け	55.0	89.6	89.4	91.5	93.2	93.5	93.6	92.6
3		まとまりのある英文を聞いての概要理解	70.0	47.0	46.7	50.6	49.9	52.8	47.3	48.5
4	(1)	現在進行形の疑問文を書くこと	55.0	38.4	38.7	34.5	33.7	46.9	23.6	26.3
	(2)	一般動詞の過去形を用いた肯定文を書くこと	65.0	72.3	72.3	72.8	64.0	71.6	59.7	59.0
	(3)	過去進行形の肯定文を書くこと	55.0	62.2	61.9	66.0	64.2	68.9	58.8	62.4
5	(1)	やや長い英文を読んでの要点把握	80.0	89.6	89.3	92.8	87.3	89.7	87.0	85.2
	(2)	やや長い英文を読んでの概要理解	70.0	62.7	62.8	61.3	61.1	63.5	57.9	60.4
6	(1)	まとまりのある説明文を読んでの詳細理解	70.0	66.9	66.7	69.8	66.2	67.0	65.8	65.5
	(2)	まとまりのある説明文を読んでの詳細理解	70.0	81.1	80.9	83.8	79.3	82.1	78.5	77.1
7	(1)	Whatを用いた疑問文に正しい語順で答えること	55.0	74.8	74.5	78.7	70.8	77.8	63.9	67.6
	(2)	対話に合う正しい語順の疑問文を作ること	70.0	72.7	72.5	75.3	65.2	65.1	60.0	67.9
8	(1)	① 場面に合う適切な英文を選ぶこと	65.0	88.6	88.2	92.3	89.0	91.3	88.2	87.3
		② 場面に合う適切な英文を選ぶこと	65.0	58.5	58.5	59.1	54.4	57.7	53.3	51.9
	(2)	対話の流れに合うよう英文を適する場所に入れること	55.0	51.9	52.2	48.5	42.8	46.3	41.8	40.1
9	(1)	Whatを用いて指定された条件に合う英文を書くこと	70.0	73.2	73.1	74.9	69.9	73.4	73.0	65.1
	(2)	How manyを用いて指定された条件に合う英文を書くこと	50.0	52.5	52.0	59.6	62.7	69.3	62.4	56.7
	(3)	指定された条件に合う否定の命令文を書くこと	50.0	60.5	60.4	62.6	62.2	68.3	62.4	56.5
10		指示に従って、まとまりのある英文を書くこと	50.0	30.8	30.8	31.1	27.5	38.0	18.5	22.0
教科全体			63.8	67.4	67.2	69.7	66.2	69.0	64.8	64.3

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内			下 北 管 内			三 八 管 内		県全体		
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
67.3	66.9	68.1	70.0	66.0	73.2	85.2	59.5	70.8	74.7	76.9	65.7	75.0	73.1	80.8	70.7
39.4	43.6	33.9	28.0	37.3	42.6	48.9	45.9	36.6	38.2	39.1	34.9	50.3	50.4	49.9	45.5
68.6	70.2	63.8	65.1	69.6	71.5	77.8	71.8	67.0	66.8	67.3	65.1	76.7	77.6	73.9	72.2
75.9	77.5	74.6	70.9	74.5	77.6	80.2	78.7	75.2	75.3	76.5	70.5	80.3	80.7	79.0	77.1
88.6	89.5	84.1	85.9	91.8	93.2	95.6	92.4	91.9	90.8	90.6	91.6	95.2	95.4	94.2	92.6
72.7	75.5	70.2	63.7	71.2	85.7	87.7	86.8	83.9	85.2	85.7	83.1	88.5	88.5	88.6	84.1
87.9	89.3	85.6	85.0	86.6	92.1	93.8	91.1	91.3	88.4	88.4	88.6	93.7	93.2	95.2	91.0
35.4	39.0	31.6	31.4	27.1	51.3	57.8	52.3	46.3	48.6	48.6	48.8	52.8	55.6	44.0	47.2
29.0	33.9	27.2	16.7	21.1	22.4	26.0	29.3	16.6	20.4	20.4	20.5	29.7	28.8	32.5	30.3
65.5	69.2	62.2	56.2	61.6	58.3	63.1	62.9	52.7	56.8	57.8	53.0	64.8	63.8	68.1	65.1
64.3	65.6	69.2	55.9	61.1	54.6	57.5	53.0	53.3	49.1	48.0	53.6	54.1	54.9	51.8	58.9
86.9	87.2	86.1	83.6	89.9	87.8	90.7	87.2	85.9	84.6	86.7	75.9	88.4	89.1	86.4	87.9
59.7	61.8	54.5	56.2	58.9	58.1	64.3	56.4	54.4	53.1	54.3	48.2	61.8	61.8	62.0	60.4
64.6	67.8	57.3	53.9	68.5	61.1	64.6	65.8	56.5	57.4	59.6	48.8	69.8	69.7	70.1	65.6
73.5	76.6	68.1	68.6	70.7	79.5	83.9	81.4	75.4	74.5	74.8	73.5	82.3	82.6	81.6	79.0
70.4	73.5	71.5	59.7	65.2	65.8	68.7	67.3	63.1	66.1	65.5	68.7	73.2	72.9	74.3	71.1
69.9	74.3	64.8	58.5	67.1	59.0	63.6	61.7	54.4	54.3	57.2	42.8	66.4	65.6	69.0	66.5
87.3	89.1	84.3	84.7	85.2	87.8	91.5	87.2	85.4	85.3	86.3	81.3	89.5	89.8	88.5	88.3
47.7	50.4	52.2	42.9	35.6	51.1	55.2	49.9	48.6	49.7	50.2	47.6	58.6	59.1	57.1	54.2
43.6	44.5	43.2	36.6	46.3	41.6	47.9	39.6	38.1	43.5	44.0	41.6	47.2	46.8	48.7	45.9
47.0	53.2	39.8	32.9	40.5	65.6	70.7	64.4	62.4	65.6	66.1	63.9	73.6	73.8	73.1	66.1
40.6	48.7	38.0	16.1	30.4	52.7	59.5	54.8	46.8	48.0	49.8	41.0	59.5	62.9	48.8	52.8
52.7	56.7	53.5	39.2	46.8	53.3	60.0	59.7	45.6	50.7	53.1	41.0	66.1	67.4	62.1	58.8
23.1	26.7	23.1	8.1	21.6	17.9	17.6	24.4	15.2	14.4	14.2	15.1	23.9	23.2	26.1	24.2
60.9	63.8	58.6	52.9	58.1	62.7	67.2	63.5	59.1	60.1	60.9	56.9	67.6	67.8	66.9	64.8

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
聞くこと	8	1(1)、1(3)、 2(1)、2(2)、 2(3)、2(4)	1(2)、3	72.6	66.9
読むこと	7	5(1)、6(2)、 8(1)①	5(2)、8(1)②、 8(2)	68.8	67.9
書くこと	9	7(1)	4(1)、4(3)、 9(2)、9(3)、 10	54.9	57.8

内容・領域別にみると、通過率の高かったのは「聞くこと」、「読むこと」である。

通過率が低かったのは、「書くこと」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは「聞くこと」であり、同程度だったのは「読むこと」、「書くこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
表現の能力	6	7(1)	9(2)、9(3)、 10	56.6	57.5
理解の能力	15	1(1)、1(3)、 2(1)、2(2)、 2(3)、2(4)、 5(1)、6(2)、 8(1)①	1(2)、3、 5(2)、8(1)②、 8(2)	70.8	67.3
言語や文化 についての 知識・理解	3		4(1)、4(3)	51.4	58.3

観点別にみると、通過率の高かったのは「理解の能力」である。

通過率が低かったのは、「言語や文化についての知識・理解」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったものはなく、同程度だったのは「表現の能力」、「理解の能力」であり、下回ったのは「言語や文化についての知識・理解」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	(2)	45.5	55.0	ウ(46.0)、イ(4.0)、ア(3.0)
3		47.2	70.0	エ(37.0)、ウ(12.0)、ア(1.0)
4	(1)	30.3	55.0	イ(47.0)、エ(12.5)、ア(12.0)
8	(2)	45.9	55.0	イ(30.5)、ア(12.0)、エ(6.5)、無答(1.5)
9	(2)	52.8	50.0	How many do you have CDs?(10.0)、Do you have～?(4.5)、How many CDs Do you have?(3.5)、What do you have～?(3.5)、many のスペルミス(3.5)、無答(9.0)
10		24.2	50.0	3文書いているが、どこかに間違いがあるもの(91.0)、 1～2文のみ書いているもの(1.0)、無答(8.0) * 2文正答(27.0)、1文正答(25.5)

- 1(2)について

誤答の原因として、ウと解答したものが46.0%と多かったことから、ウの文中のbookにとらわれすぎたことと、Whoseの疑問文とその応答の仕方が十分に理解されていないことが考えられる。
- 3について

誤答の原因として、エと解答したものが37.0%と多かったことから、his countryをオーストラリアであると認識できなかったことが考えられる。
- 4(1)について

誤答の原因として、イ (Does) の解答が47.0%と多かったことから、進行形の文構造の理解が定着していないことと、文中のyour fatherにとらわれすぎたことが考えられる。
- 8(2)について

誤答の原因として、イの解答が30.5%と多かったことから、[I was studying there with Hideki.] 内のthereの内容を考えなかったことが考えられる。
- 9(2)について

誤答の原因として、疑問詞「いくつ」(How many) の欠落、How many + 名詞の複数形の文構造の理解が十分でないことなどが考えられる。
- 10について

18年度は2文を書く問題であったが、今年度は、よりまとまりのある文を書く力を見るために3文を書く問題とした。書く文の数が増えたことにより、通過率も昨年の42.7%から24.2%へ下がったものと考えられる。しかし、無答の割合が減り、3文書いている解答数が大幅に増えるなど、誤答は多いながらも意欲的に英文を書いていた。誤答の原因として、He from Yamagata. He like tennis. He play the guitar. He is play the guitar. などの誤答が多かったことから、be動詞の欠落、三単現のsの欠落、canの欠落、be動詞と一般動詞の混在など、動詞及び助動詞の使い方が定着していないことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、「書くこと」であり、特に基本的な文法事項と文構造（語順）の定着、5W1Hで始まる疑問文とその応答の仕方の定着及びまとまった英文を書く活動の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、文法事項と文構造の指導について、「意味が分かる→読める→書ける」という手順に従い、文型カードを用いるなど工夫しながら文の構造（語順）を確認し、口頭練習を十分に行った上で、書く活動にまで高めることが必要である。

Wh疑問文とその応答の仕方の指導については、文法的な知識としてだけではなく、「いつ、どのような場面で、なぜ用いるのか」を言語活動の中で何度も使用することによって慣れさせ、場面に応じて適切に運用できるように指導する必要がある。そのためには、例えば、Q&Aにおいては、段階的な指導が必要であるが、教師から生徒への一方通行ではなく、双方向のコミュニケーションとなるよう、生徒がWh疑問文を使って質問する機会も設定するなどしながら、Wh疑問文の使用や応答の仕方に慣れさせた上で、書く活動にまで高めることが必要である。

まとまった文を書くことについては、書くことへの抵抗感を減らし、いかに興味・関心を高めるかが大事になるため、低学年のうちは質より量的なものに力点を置き、多少間違っても書く量を求めたい。また、テーマを設定する際には、生徒が書きたくなるようなトピックや、生徒の実態や能力に合ったものを取り上げることが必要である。さらに、授業の中にShow and Tell, Skit, Speech等を位置付け、既習の基本文を使いながら、身の回りの出来事や自分の気持ち・考えなどについて、つながりのある複数の文を書かせる取組が大切となる。

評価の観点別にみた課題としては、「表現の能力」、「言語や文化についての知識・理解」の伸長が挙げられる。特に、be動詞と一般動詞の混在、be動詞の欠落、三単現sの欠落、助動詞canの欠落、進行形等の文構造、疑問詞の使い方については、十分とは言えない。

今後の学習指導においては、基本的文型・文法事項等を定着させるため、指導や活動の後に適宜その定着度を確認し、生徒がつまづきやすいものについて重点化を図ると同時に、言語の運用が容易になるような知識に焦点を当て、繰り返し指導していくことが大切である。さらに、既習の言語材料を複数組み合わせる用いることが要求されるような活動を工夫し、十分な口頭練習を行いながら文構造の理解等、身に付けた知識を「表現」にまで高める工夫が必要である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、Whoseの疑問文とその応答の仕方の定着及び文と文のつながりに注意しながら英文を聞き、その概要や要点を聞き取る力の伸長が挙げられる。特に、Whoseを使った疑問文とその応答の仕方については、ここ4年間連続して通過率が50%前後と低迷しており、日常的に使用頻度を高くするなどして、定着を図りたい。

今後の学習指導においては、自然な口調で話されたり読まれたりする英文を聞いて、具体的な内容や大切な部分を聞き取ったり、質問や依頼などを聞いて適切に応じたりするために、注意深く相手の質問を聞かせたり、推測しながら相手の話を聞き取らせたりすることや、情報を整理しながら理解するために、疑問詞を使ったQ&Aに段階的に慣れさせる必要がある。その土台として、授業において、生徒も教師もできるだけ英語を使って、積極的にコミュニケーションしようとする雰囲気づくりに心掛けることが大切である。特に教師は、生徒の理解度を把握しながら、積極的にClassroom Englishを使用し、授業の中に意図的にTeacher Talkを取

り入れていくなどの努力が必要とされる。また、聞き間違いやすい数字等に関して、今年度は fifteen と fifty がかなり正確に聞き取れており、指導の効果が表れていると言えるが、数字については、時間や買い物の金額など日常生活での使用頻度が高いので、正確に聞き取り使えるよう継続して指導していく必要がある。

設定通過率との比較からみた課題としては、英文を読んで概要・要点を理解する力の伸長が挙げられる。内容・領域別にみると、「読むこと」にかかわる問題7問のうち4問が設定通過率を下回っている。特に、新傾向の問題であり、対話の流れを読み取る問題である〔8〕の(2)では、設定通過率を9%あまり下回り、通過率も45.9%と低いものとなった。これは、代名詞に注目して読み進めることができなかつたことが要因と考えられる。

今後の学習指導においては、対話文などの内容を全体として読み取る力や、その話題や登場人物、一文一文の叙述内容に気をつけ、キーワードを押さえながら読み取る力を身に付けさせるため、書かれた内容を考えながら黙読したり、その内容が表現されるように音読したり、物語や説明文などのあらすじや大切な部分を読み取ったり、伝言や手紙などから書き手の意向を理解し適切に応じたりする活動を工夫することが必要である。

特に、音読においては、変化のある活動にテンポよく取り組ませるために、リズムボックスやCD等の利用、チャンツやRead and Look Up等の導入、個人・ペア等での音読の工夫など、いろいろな手法をその指導目的に合わせて効果的に活用することが大事である。また、読解においては、単語の逐語訳から概要把握にもっていくのではなく、教師から与えられた、あるいは生徒自身もっている背景的知識と英文からの情報を統合することによって概要を把握し、必要に応じて単語の意味や文法事項にも着目させ、概要理解を詳細理解に高めていく指導が必要である。

キ まとめ

「聞くこと」については、おおむね良好である。一方、「書くこと」については、不十分な点が見られる。また、「読むこと」については、極端に通過率の低いものはないが、設定通過率を下回るものが目立った。

今後は、「書くこと」の指導について、各学年に応じた英語を用いて、ある程度まとまった内容について書く活動や、さまざまな疑問詞を使った疑問文とその応答について、言語活動を通して確実に理解し、その後書く活動を繰り返し行うことが必要である。その際、最初から正確さを求めず、段階を踏みながら適切さや正確さを求めていくように指導することが大切である。また、「読むこと」については、限られた授業時間の中に、計画的に、まとまった内容の英文を読んだり、音読する時間を設定していくことが必要である。このように、基礎的・基本的内容の定着を目指し、「書くこと」、「読むこと」の言語活動の比重を高めながら、「聞くこと」、「話すこと」を含めた4領域にわたる実践的コミュニケーション能力を育成するための段階的・継続的な指導が必要である。

